



まちは日野高の応援団 ～一緒に盛り上げよう！～



▲同点のホームを踏む生田さん



▲ヒットの快音が球場に響きわたる



▲粘り強い力投を見せた山本さん



▲あとアウト一つ。円陣を組むナイン

長くて険しかった勝利までの道
「今まで応援してくれた皆さんに、勝って恩返しをしたい」。はにかみながら話していた生田蘭摩さん（3年）は、最後の打者を打ち取ると、マウンド上で同じ3年生の室直哉さんと抱き合い、喜びを爆発させました。

10年ぶりのベスト8入り、そして4年ぶりの勝利までの道のりは長くて険しいものでした。昨年夏の県大会後、当時の3年生が引退し、試合ができないと、生田さんと室さんが退部。その際、主将を任されたのがピッチャーの山本大瑚さん（2年）でした。残った山本さんと石飛樹さん（2年）、池口隼矢さん（2年）は、練習試合も組めない中、くじけずに基礎体力づくりに励み、部を守り続けました。

そして、今年の春、1年生8人が入部し、山本さんら2年生が声をかけ、生田さんと室さんも復帰。13人となった日野高校野球部は新たなスタートを切りました。

「1年が入ってくれて感謝しています」と3年生の2人。再び野球ができる喜びを感じながら、全員一丸となって練習に打ち込みました。野口真吾監督は「練習を重ね、また練習試合も20試合近く戦い経験を積むことで、徐々に形になってきた」と振り返り、登下校時や練習の際に、地域の人から応援の言葉をかけられることで「部員にも、まちなの人に恩返ししたい」という気持ちもあるのでは」と話します。

仲間に支えられ一丸となつてつかんだ1勝
そうして迎えた岩美高校戦では、二回に先制点を奪われたものの、四回に同点に追いつき、五回に逆転、六回にも追加点を奪いました。先発した山本さんも9安打3失点ながら、味方の好守にも支えられ、粘り強く投げ切り接戦を制しました。

試合後、生田さんは「練習試合ではいつも声が出ていない時に失点していたので、今日は声を出していこうとみんなで話していた。最後まで気持ちが切れずに戦えた」と話すと、山本さんも「みんな一丸となつて頑張れた。緊張感を持ちながら楽しめた」と笑顔を見せました。

次戦の米子西高校戦では、惜しくも敗れてしまったものの、大きく成長した姿を見せた日野高校野球部。仲間や地域の人への支えに感謝し、再び野球ができる喜びをかみしめながら、生田さんと室さんにとっても一生忘れられない高校最後の夏となりました。

《試合結果》

- ▽2回戦 日野 4 - 3 岩美
- ▽準々決勝 米子西 14 - 3 日野 (7回コールド)



▲勝利を喜び、マウンドで抱き合う生田さん（3年・左）と室さん（3年）



▲全員一丸となりつかんだ勝利をかみしめながら、校歌を熱唱

みんなで乗り越えつつかんだベスト8

全国高校野球鳥取大会

第97回全国高校野球鳥取大会が、7月11日から25日まで、鳥取市のコカ・コーラウエストスポーツパーク野球場で開かれました。日野高等学校野球部は、大会5日目の2回戦に出場。岩美高等学校と対戦し、接戦の末、見事勝利しました。次戦の準々決勝では、米子西高等学校に敗れたものの、10年ぶりのベスト8入りを果たしました。